

# 慶向山 (けいこうざん) 禪定寺 (ぜんじょうじ)

中国観音霊場 24 番 <http://www.kannon.org/jiin/01/27/index.htm>  
出雲観音霊場 10 番



**山号** 慶向山  
**宗派** 天台宗  
**開山** 天平年間(729～749)  
**創建** 行基菩薩  
**御本尊** 聖観世音菩薩  
(しょうかんぜおんぼさつ)

**[別名]**  
身代わり観音、おたすけ観音

**代表的寺宝**  
木造 聖観世音菩薩立像  
木造 阿弥陀三尊像

**ご利益等** 家運隆昌・商売繁盛

## [身代わり観音]伝説

本尊聖観世音菩薩は秘仏で、33年に一度扉が開かれる。この本尊は、「身代わり観音」として有名である。諸説、古伝があるが、概ね次のような内容である。  
ある冬、来る日も来る日も雪が降り続き、住職はとうとう餓死寸前であった。ある夜、夢枕に観音様から「玄關の戸を開けて見よ。イノシシ(シカ)が眠っておるので、その“モモ”の肉を取って食べよ。」との夢諭があった。住職は未明に、さてはと思いつきながら玄關に出てみると、イノシシ(シカ)が眠っていた。思案の末、命には変えられぬと“モモ”の肉を食べてしまった。夜が明けて、再び玄關を見るとイノシシ(シカ)はいない。落ちた血のあとを辿って行くと、本堂の厨子の中まで続いていたという。

観音様は、飢えに苦しむ住職を「身を変えて」お助けなさったということである。その後、観音様は人々をおたすけになるということで、「おたすけ観音」としても信仰されている。

**宝物** 本尊 木造 聖観世音菩薩立像 国指定重要文化財  
平安時代 カヤの一木造 像高228cm 出雲様式

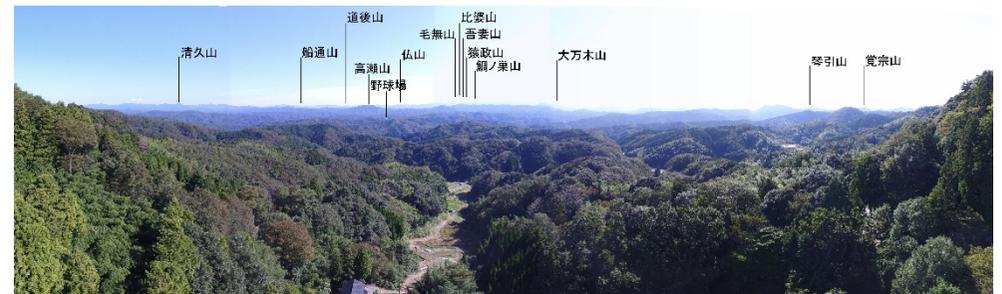
諸尊 木造 阿弥陀如来座像  
木造 観世音菩薩立像 国指定重要美術品・県指定有形文化財 藤原時代  
木造 勢至菩薩立像 国指定重要美術品・県指定有形文化財 藤原時代  
木造 天部形立像 市指定文化財 藤原時代  
堂宇 根本堂 市指定有形文化財

**行事** 4月 ・観音供養・稲荷・弁天供養

**住所** 〒690-2634 島根県雲南市三刀屋町乙加宮1874 TEL・FAX 0854-45-4360

**交通アクセス** 案内マップ <http://www.kannon.org/jiin/03/index.htm>

- (1) 中国やまなみ街道(尾道松江線) 三刀屋木次ICから  
国道54号⇒県道出雲奥出雲線経由 車で約20分
- (2) 高速乗合バス(路線バス) 広島⇄三次・出雲線(みこと)  
バス停 下熊谷バスセンター から タクシーで約20分
- (3) 高速乗合バス(路線バス) 広島⇄三次・松江線(グランドアロー)  
バス停 木次高速 から タクシーで約20分
- (4) JR木次駅から タクシーで約20分



**御詠歌** よろずごと よきを定むる 寺なれば まいる心の すえはたのものし

## 由来

当山は、天平年間(729年～749年)に当国に遊化された行基菩薩が、深山幽境で中国山脈の山並を一望できる眺望絶景の地を密教の根本修練場と定めて草庵を結ばれ、自ら聖観世音菩薩及び阿弥陀三尊仏を彫り安置されたのが創りと伝えられている。山号を四方の景観に名どり、慶向山と号し、また、禪定三昧に適した聖地であることから、禪定寺と称された。

当山の位置する山は、四方何処から見ても丁度鍋を伏せたように見えることから鍋山と呼ばれ、旧村名は、鍋山村と名付けられた。当地では、今も「鍋山」の名称は、公共施設などに多く使われている。

聖武天皇勅願の霊場といえども星霜幾歳の間には盛衰あり、康保年中、中興の僧、性空上人によって伽藍僧坊を再建して七堂伽藍四十二院を有する宏壮な寺院となった。

しかるに、中古、大内、尼子、毛利等の領主のみぎり、度々兵火のため堂宇伽藍は全て焼失したが、本尊聖観世音菩薩と阿弥陀三尊仏は土中で守り現在に至っている。

度重なる興廃であったが、佐世石見守から田、畑、百姓屋敷等多くの寄進を受け、引き続き領主松平直政公から代々の寄進があり、領主の祈願寺として栄えた。

その後、明治の廃仏棄釈、さらにまた、戦後の農地解放を経て現在に至った。

当山は、古来所願成就、特に人、家畜共に食には不自由しないというところから、農家、商家の信仰が篤い。正月のメの内にお参りしなければということで、この間は、近郊からの参詣が多く、終日香の煙が絶えることがない。